

第3章 地震被害想定

3.1 地震被害想定項目

地震被害想定項目を表 3.1.1に示す。

表 3.1.1 地震被害想定項目（一部再掲）

種別		調査項目	
地震被害想定	地震動の予測	地震動	震度分布
	液状化危険度の予測	液状化	液状化危険度、地盤の沈下
	土砂災害危険度の予測	急傾斜地崩壊	急傾斜地崩壊危険度
	建物被害等の予測	揺れ	全壊・半壊棟数
		液状化	全壊・半壊棟数
		急傾斜地崩壊	全壊・半壊棟数
		出火・延焼	出火件数、焼失棟数
	屋外転倒物及び落下物の予測	転倒物	ブロック塀、石塀、コンクリート塀の転倒、自動販売機の転倒数
		落下物	落下物が生じる建物棟数
	人的被害の予測	建物倒壊	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者
		急傾斜地崩壊	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者
		火災	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者
		ブロック塀等の転倒等	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者
		要救助者	要救助者数
	ライフライン被害の予測	上水道被害	断水人口、断水率
		下水道被害	支障人口、支障率
		電力被害	停電軒数、停電率
		通信被害	不通回線数、不通回線率
		都市ガス、LP ガス	都市ガス：支障戸数、支障率 LP ガス：支障戸数
	交通施設被害の予測	道路施設	被害箇所数
		鉄道施設	被害箇所数
災害廃棄物の予測	災害廃棄物	可燃物・不燃物の災害廃棄物量、仮置き場の必要面積	
生活支障	避難者	全避難者数、避難所避難者数、避難所外避難者数	
	エレベータ内閉じ込め	停止台数、閉じ込め人数	
災害対応能力	救出活動	救出可能数、救出不可能数	
	食料の供給	備蓄量、需要量、不足量	
	飲料水の供給	備蓄量、需要量、不足量	
	毛布の供給	備蓄量、需要量、不足量	
	トイレの供給	備蓄量、需要量、不足量	
	避難所の充足度	収容人数、過不足、充足率	
帰宅困難者	帰宅困難者及び滞留者	帰宅困難者数、滞留者数	

地震火災による建物被害及び人的被害は、被害の様相が異なる特徴的な夏 12 時、冬 5 時、冬 18 時の 3 ケース（表 3.1.2）で被害想定を行い、本報告書には、被害量が最悪となる冬 18 時（強風時）の想定結果を掲載した。

なお、冬 5 時の被害が最大となる人的被害については、冬 18 時に加え、冬 5 時の想定結果もあわせて掲載した。

表 3.1.2 想定シーンと想定される被害の特徴（再掲）

想定シーン	想定される被害の特徴
夏 12 時 平均時 3.4m/s 強風時 8.0m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィス、繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。 ・木造建物内滞留人口は、1 日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数は冬 5 時と比較して少ない。 ・夏場の地震発生により避難所等では熱中症等や衛生上の問題が発生することが考えられる。
冬 5 時 平均時 3.6m/s 強風時 8.0m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高い。 ・オフィスや繁華街の滞留者や鉄道・道路利用者が少ない。
冬 18 時 平均時 3.6m/s 強風時 8.0m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。 ・オフィスや繁華街周辺のほか、駅にも滞留者が多数存在する。 ・鉄道、道路もほぼ帰宅ラッシュ時に近い状況でもあり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。

※風速（平均時）は表 2.1.2 より算出（12～2 月を冬、6～8 月を夏と想定）、風速（強風時）は、平成 26・27 年度千葉県地震被害想定調査（2016・2017 年）の値とした。